

[成果情報名]ラベンダー精油を使った香り添加ツバキ油の製法

[要約]

「長崎ラベンダー」からの精油の抽出時間は8分が適切である。ハンドオイルとして使用するためのツバキ油へのラベンダー精油の添加濃度は0.5%が適切である。

[キーワード]ツバキ油、ラベンダー精油

[担当]長崎県農林技術開発センター・森林研究部門

[連絡先](代表)0957-26-3330

[区分]林業

[分類]普及

[作成年度]2015年度

[背景・ねらい]

これまでに甘夏の果皮の精油を用いて「カメリア 510」を開発したが、研究のアンケートの中で、ラベンダーの香りに対する要望が強かった。その後、長崎県内で「長崎ラベンダー」が開発され、これを用いた精油の製造とツバキ油に添加した製品を開発する。

ラベンダーの精油の香りは、蒸留抽出時間とともに変化し、抽出量も減少することから、抽出時間を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. ラベンダー花葉からの水蒸気蒸留特性を見るため、抽出時間別の精油の特性をガスクロマトグラフィー（ヘッドスペース法）で計測した結果、ラベンダー香りの主成分であるリナロールは、抽出時間に関わらず一定の濃度で検出したが、酢酸リナリルは時間とともに減少する。
2. ラベンダーの精油は、抽出時間とともに香りが変化し、ラベンダーの香りに濁りが加わるようになっていき、1分間で抽出される精油の量も減少していく。香りの変化から8分までと8分から12分まで、12分以上に3段階に区分し、ガスクロマトグラフィーで分析したところ、8分以上では酢酸リナリルが減少し、そのほかの成分が増加しており、この結果から水蒸気蒸留の時間は8分が適切である。
3. ラベンダー精油を添加したハンドオイルとして使用するためのツバキ油へのラベンダー精油の添加濃度は、一般のアンケート及び専門家の意見、安全性や使った時の印象等を総合的に判断して0.5%が適切である。
4. ラベンダー精油の0.5%添加ツバキ油は、外用試験により安全性が確認した。

[成果の活用面・留意点]

1. ツバキ油は新上五島振興公社の脱酸したツバキ油を使用する。
2. 製品化の際は、健常な皮膚への使用を明記する必要がある。
3. ラベンダーの生育をみながら、新上五島振興公社での商品化を計画している。

[具体的データ]

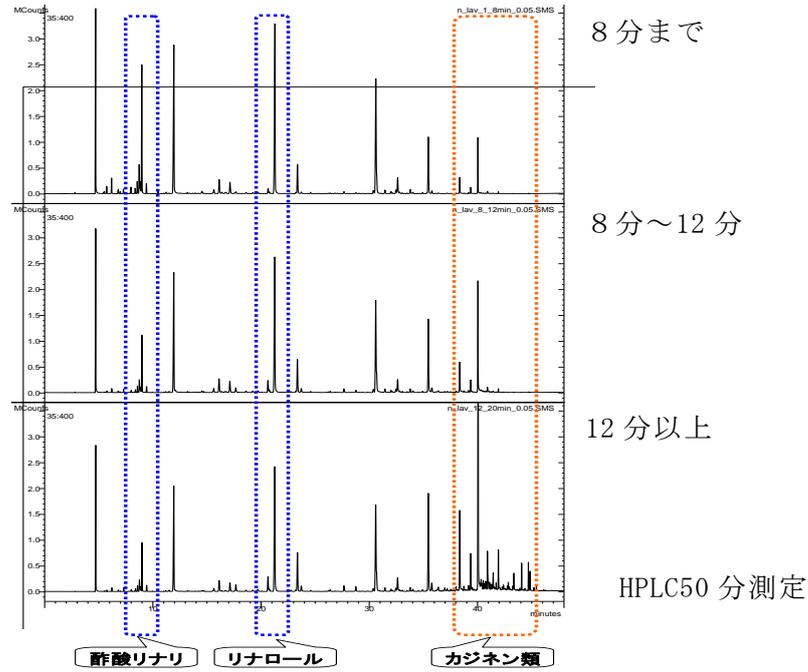


図1 長崎ラベンダー（城南1号）精油香り成分変化

表1 ツバキ油ハンドオイルに添加する長崎ラベンダーの精油の濃度と評価

| | 香り | | 青臭さ | 評価 |
|--------|------|----------|-----|-------------------------|
| | よし悪し | 強弱 | | |
| 城南0.5% | △ | インパクトがある | 青臭い | ◎ お土産等としてはインパクトのある香りが良い |
| 城南0.4% | ○ | 弱い | 弱い | ツバキ油の匂いが感じられる |
| 城南0.3% | ○ | 弱い | 弱い | ツバキ油の匂いが感じられる |

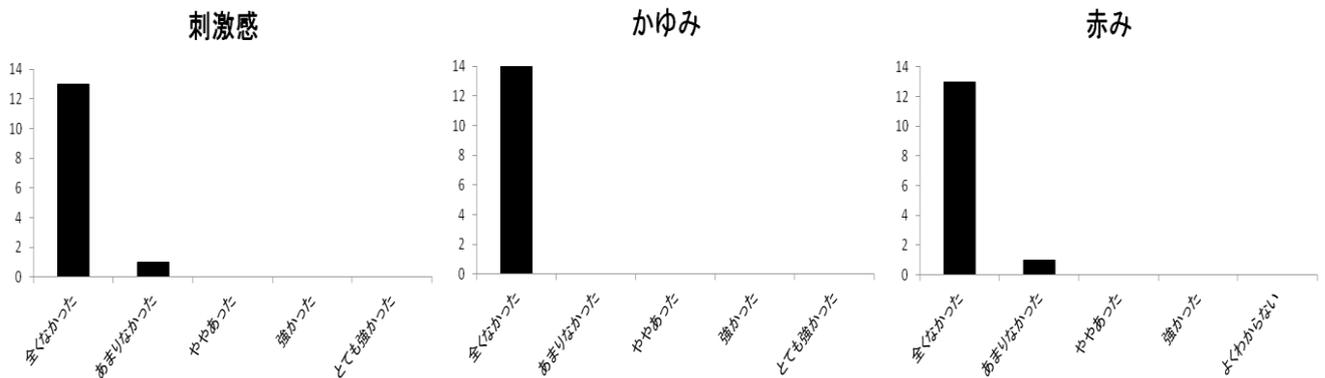


図2 ラベンダー添加ツバキ油外用4週間後アンケート結果

[その他]

研究課題名：ツバキ振興対策事業、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業

予算区分： 県単、国庫

研究期間： 2013～2017年度、2013～2015年度

研究担当者：田嶋幸一、松本周三、大久保佑美

発表論文等：